



# 卒論の書き方

田村ゼミ 4年研究会

# 卒論の目的

なぜ卒論を書くのか

- ① 専門的な問題を深く追求し、身につける
- ② 時間をかけて思考することによる思考力をつける
- ③ 本質論を見抜く、考える
- ④ 知識・思考を「文章で」表現する
- ⑤ 学術的な論文を書く

# 学術的な論文としての卒論

- 学術的な論文を書こう

- ① 先行研究を踏まえる

- ② 証拠に基づいた論理

- (脚注が重要で、論文の質のチェックになる)

- 法律論文を書こう

- ① 基本は解釈論(×立法論、△制度論)

- ② 条文／判例の分析

# 卒論のアプローチ

## ① 議論が未発達分野における議論

＝まだ議論が十分になされていない分野の調査・分析

## ② 既存の研究の深化

＝同じようなテーマで新しいアイディアに挑戦する

どうやってテーマ／問題点を見つける？

＝教科書、通常の勉強での発見、体験・興味

# 卒論を書くに際して・・・

- テーマを十分に絞る
- まず読む or まず書く
- 分かりきったことに時間を費やさない  
＝主題に最短距離でたどり着くように
- 絶えず自問自答
- 問題意識を持つ、問題意識に立ち返る
- 夏休み前には論点が見えてると望ましい

やればやるほどわからなくなる＝健全！

# 卒論の構造

序章／はじめに

問題提起

第1章

第2章

第3章

終章／結語／おわりに

要点をまとめる



# 脚注の書き方(日本語)

米谷以三「生産方法の規制に関する GATT 上の規律(上)—— 内国民待遇義務の本質論から」貿易と関税 45 巻 4 号(1997)70 頁

間宮勇「貿易と社会的規制—WTO協定の下での健康と安全の確保」ジュリスト二五四号(二〇〇三)四二頁

田村次朗『WTOガイドブック』(弘文堂、第 2 版)159 頁。

中川淳司ほか『国際経済法』(有斐閣、二〇〇三)一七一頁。

小寺彰(WTO 体制における『非貿易的関心事項』の位置—その鳥瞰図)小寺彰編著『転換期の WTO、非貿易的関心事項の分析』25 頁(東洋経済新報社、2003)

## 2-4 一度参照・引用した文献

・川島・前掲注 34、45 頁

・清水・前掲注二四、五六—五九頁

# 脚注の書き方(英語)

Arthur E. Appleton, *GATT Article XX's Chapeau: A Disguised 'Necessary' Test?: The Appellate Body's Ruling in United States - Standards for Reformulated and Conventional Gasoline*, 6(2) RECIEL 131, 132 (1997).

JOOST PAUWELYN, *CONFLICT OF NORMS IN PUBLIC INTERNATIONAL LAW* 267 (2003).

Frank J. Garcia, *The Salmon Case: Evolution of Balancing Mechanisms for Non-Trade Values in WTO*, in *TRADE AND HUMAN HEALTH AND SAFETY*, 133, 150 (George A. Bermann and Petros C. Marvroidis eds., 2006).

Appellate Body Report, *United States — Import Prohibition of Certain Shrimp and Shrimp Products*, WT/DS58/AB/R (Oct. 12, 1998) [hereinafter, U.S. Abbreviation Appellate Body Report], para.6.

- *supra* :すぐ上ではない、前で文献名が出てきているとき(例: Jackson *supra* note 78, at 89.)
- *id.* :すぐ上に同じ文献が出てくるとき ※文頭の場合には頭文字は大文字。(例: Hudec *id.*, at 34.)
- 本が再度出てくる場合、*supra* の前の名前も大文字標記(例: SYKES *supra* note 23, at 75)
- *ibid.* :全く同じページからの引用の場合(例: Charnovitz, *ibid.*)